

第7回(1994年度)地質調査所研究講演会

「海洋に資源を求めて」

1973年の第一次石油危機以降、資源の安定供給は国際的な課題となっています。海洋資源については、長年にわたり検討されてきた国連海洋法が本年11月に発効することとなり、今後の開発に向けて海域のエネルギー・鉱物資源の賦存状況の見直しが重要になっています。地質調査所では、昭和49年度以降地質調査船「白嶺丸」を使用して、太平洋の深海底や我が国周辺海域の海洋地質調査を実施してきました。本講演会では、この20余年にわたる調査データ等に基づいた「海洋地下資源」の成因や賦存状況についての研究結果を紹介します。

- 日時/平成6年11月2日(水)10:00開場
- 会場/三会堂ビル9F 石垣記念ホール
港区赤坂1-9-13 TEL 03(3582)7451
- 主催/工業技術院地質調査所
(財)日本産業技術振興協会
- 協賛/(社)東京地学協会・石油技術協会
資源地質学会・金属鉱業事業団
- 参加費：聴講無料
(ただし、テキスト代実費一般2,600円)
- 申込先：(財)日本産業技術振興協会
〒105 東京都港区虎ノ門1-19-5
虎ノ門1丁目森ビル5F
TEL 03(3591)6272
FAX 03(3592)1368
- 問い合わせ先：工業技術院地質調査所
総務部業務課広報係
〒305 茨城県つくば市東1-1-3
TEL 0298(54)3520

〈特別講演〉

「深海底鉱山をめぐる技術開発の現状と展望」

資源環境技術総合研究所

地殻工学部海底工学研究室長 鶴崎 克也

深海底のマンガン団塊を対象とした採鉱技術が1970年代後半から検討されてきた。近年では、海山上のコバルト・リッチ・マンガン鉱床をも対象とした技術開発が進められている。これらの技術開発の現状と展望、及び技術開発の視点から今後必要とされる地質情報について述べる。

「海底熱水鉱床の地球化学的性質と起源」

筑波大学教授 梶原 良道

海底温泉の沈殿物の由来を考える場合、単に周辺基盤岩石のみならず、海底表層堆積物及び海洋水自体にも注意を払う必要がある。このような観点から海底熱水硫化物鉱床の地球化学的性質をレビューし、同鉱化作用における“exogenic geochemical cycles”の重要性を指摘する。

〈講演〉

「海洋に資源を求めて」

—地質調査所海洋地質部の20年—

海洋地質部長 中尾 征三

「マンガン団塊・クラストの研究の現状と展望」

海洋鉱物資源課主任研究官 白井 朗

「海洋資源としてのメタン・ハイドレート」

海洋物理探査課長 奥田 義久

「伊豆・小笠原弧における熱水活動調査」

海洋地質課長 湯浅 真人

「細骨材資源論—陸域から海底へ—」

海洋底質課長 有田 正史